

# Vital Signals [ヴァイタル・シグナル]

日米初期ビデオアート上映会 — 芸術とテクノロジーの可能性 —

Japanese and American Video Art from the 1960s and 70s

1960、70年代 — メディアアートのパイオニアたちが挑んだ50の実験の痕跡



飯村隆彦 | カメラ、モニター、フレーム 1976年  
Takahiko limura "Camera, Monitor, Frame" 1976  
Courtesy of the artist.

会場：東京藝術大学 美術学部 中央棟 第1講義室 | 入場無料・予約不要

Lecture Room 1, Center Bldg., Tokyo University of the Arts | Admission Free • No Reservations

〒110-8714 東京都台東区上野公園12番8号 JR 上野駅・鶯谷駅、東京メトロ根津駅より徒歩10分 / 京成上野駅、東京メトロ上野駅より徒歩15分 / 駐車場なし  
12-8 Ueno Park, Taito-ku, Tokyo, 110-8714 Japan Map → <http://www.geidai.ac.jp/pc/lecture/map.jpg>

■ 上映会 [Screenings] ————— 2010年5月8日[土]・9日[日]

May 8-9, 2010

5/8 sat.

Vital Signals は、ニューヨークのビデオアーカイブ機関 EAI (エレクトロニック・アート・インターミックス)、横浜美術館、および日本のキュレーターや研究者たちの共同企画による、国際巡回プログラムです。

この Vital Signals というタイトルには、ビデオというメディアの特性＝「活発な電気信号」、そして当時の芸術文化におけるビデオアートの位置づけ＝「重要な兆候」、という2つの意味を託しています。

13:30-

a 「ビデオ言語論」  
(10作品、約57分)

14:50-

b 「拡張する形式」  
(9作品、約80分)

16:30-

c 「テレビの解放」  
(8作品、約84分)

5/9 sun.

13:30-

d 「共有される記憶」  
(7作品、約48分)

14:40-

e 「ビデオと行為」  
(8作品、約74分)

16:15-

f 「ビデオと身体」  
(8作品、約64分)

■ 対談 [Talk] ————— 2010年5月6日[木] 18:20-19:50

飯村隆彦 (映像作家)、神谷幸江 (広島市現代美術館学芸担当課長)

May 6, 2010 18:20-19:50

Takahiko limura and Yukie Kamiya (Chief Curator, Hiroshima MoCA)

主催：東京藝術大学、東京藝術大学美術学部附属写真センター

協力：EAI (エレクトロニック・アート・インターミックス)、横浜美術館 / 特別協賛：アメリカ大使館

監修：神谷幸江 (広島市現代美術館学芸担当課長)、阪本裕文 (稚内北星学園大学講師)

問い合わせ：写真センター (担当：椎木) URL [www.geidai.ac.jp/pc/](http://www.geidai.ac.jp/pc/) E-Mail [pc@ml.geidai.ac.jp](mailto:pc@ml.geidai.ac.jp) Tel&Fax 050-5525-2294



## 商業映画でも、実験映画でもない、もう一つの映像文化史の源流へ——

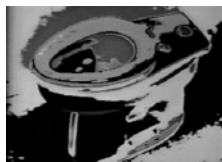
「ビデオ」が登場した1960年代。すぐさま、アーティストたちはこの新しいメディアを用いた探求と実験の中に身を投じていきました。世界の芸術文化の中心地であったアメリカ、そしてビデオメディアの発祥地である日本など各国で、ビデオをめぐる活発な創作活動と文化交流が展開しました。そこに、商業映画とも実験映画とも異なる文脈をもつ、「ビデオアート」というもう一つの映像表現の文化が形成されていったのです。

本上映会「ヴァイタル・シグナル」は、日本とアメリカにおけるビデオアート史の最初の20年に焦点をあてます。日米を代表する38作家(組)による50タイトルを、2日間全6プログラムで一挙上映。他の芸術分野や科学技術と深く関わり合い、そして同時代の政治やマスメディアと激しく衝突しながら展開したビデオアート草創期の軌跡を明らかにしていきます。

これまでまとめて上映されることがほとんど無かった日米初期ビデオアート。そのパイオニアであった彼らの実験を、今日の視点から振り返る絶好の機会です。

### Section 1 テクノロジー：新しい視覚言語

#### program a ビデオ言語論 10作品 〇約57分



a-4



a-10

シンセサイザーや画像プロセッサなど、新技術を用いた映像や音響の創出。ビデオアート草創期、このメディアの技術的可能性を探求する様々な実験が展開する。

- a-1 ナムジュン・バイク | ヘル研究所での電子映像実験 1966年/4分40秒
- a-2 CTG | コンピューター・ムービー No.2 1969年/8分
- a-3 ゲイリー・ヒル | 電子言語学 1977年/3分40秒
- a-4 松本俊夫 | メタスタシス 新陳代謝 1971年/8分
- a-5 スタン・ヴァンダービーク | ストロープ・オード 1977年/11分
- a-6 山口勝弘 | イメージモデュレーター 1969年(再制作)/45秒(インスタレーションの記録映像)
- a-7 山口勝弘 | 大井町附近 1977年/1分30秒(インスタレーションの記録映像)
- a-8 松本俊夫 | モナ・リザ 1973年/3分
- a-9 スティナ&ウディ・ヴァスルカ | 腐蝕 I 1970年/1分57秒
- a-10 安藤敏平 | オー!マイ・マザー 1969年/13分

#### program b 拡張する形式 9作品 〇約80分



b-4



b-5

収録内容をその場で再生できる「リアルタイム・フィードバック」機能をはじめ、ビデオ固有のさまざまな特性が、映像制作のあり方を刷新していく。

- b-1 ナムジュン・バイク (マース・カニングハム、チャールズ・アトラスとの共作) | マース・バイ・マース・バイ・バイク: ブルーススタジオ 1975-76年/15分49秒
- b-2 山本圭吾 | Breath No.3 1977年/6分
- b-3 ジェイムズ・バーン | 半透明 1974年/2分15秒
- b-4 飯村隆彦 | カメラ、モニター、フレーム 1976年/17分15秒
- b-5 ジョーン・ジョナス | 左側 右側 1972年/8分50秒
- b-6 飯村隆彦 | オプザバー/オプザード [抜粋版] 1975-76年/8分45秒(オリジナル: 20分)
- b-7 飯村隆彦 | 男と女 1971年/7分
- b-8 ジェイムズ・バーン | 両方 1974年/3分38秒
- b-9 山本圭吾 | Hand No.2 1976年/7分50秒

### Section 2 オルタナティヴ・メディア：コミュニケーションの変容

#### program c テレビの解放 8作品 〇約84分



c-2



c-6

当時の文化を支配していた「テレビ」。アーティストや活動家は、テレビの特性を個人的な表現に取り込んで、マスメディアや政治といった巨大な存在に対峙する。

- c-1 ナムジュン・バイク&ジャド・ヤルカット | コマーシャルを待ちながら 1966-72/1992年/6分35秒
- c-2 中谷美二子 | 水俣病を告発する会—テント村ビデオ日記 1971-72年/21分
- c-3 松本俊夫 | マグネティック・スクランブル 1968年/30秒(映画《薔薇の葬列》より)
- c-4 デイヴィッド・コート | メーカー・リアルタイム [抜粋版] 1971年/8分30秒(オリジナル: 59分45秒)
- c-5 ビデオアース東京 | 橋の下から 1974年/13分
- c-6 ダラ・バーンバウム | テクノロジー/トランスフォーメーション: ワンダーウーマン 1978-79年/5分50秒
- c-7 クリス・バーデン | TVコマーシャル 1973-77 1973-77/2000年/3分46秒
- c-8 TVTV | あと4年(ニクソン再選運動の記録) [抜粋版] 1972年/23分6秒(オリジナル: 61分28秒)

#### program d 共有される記憶 7作品 〇約48分



d-4



d-2

個人の日常から歴史的イベントまで、撮影者はカメラを媒介してあらゆる被写体とその場の経験を共有し、残された映像は不特定多数の人々の記憶の中に共有されていく。

- d-1 久保田成子 | ヨーロッパ・オン・1/2インチ・ア・デー [抜粋版] 1972年/8分30秒(オリジナル: 30分48秒)
- d-2 中島興 | マイ・ライフ [抜粋版] 1976-92年/5分(オリジナル: 22分/2チャンネルビデオインスタレーション)
- d-3 アント・ファーム | アント・ファームの汚れた皿 1971-2003年/8分30秒
- d-4 アラン・カプロー | Hello 1969年/4分45秒
- d-5 シャーリー・クラーク | ティー・ピー・ビデオ・スペース・トループ パート1 1970-71年/4分50秒
- d-6 中谷美二子 | 老人の知恵—文化のDNA 1973年/10分30秒/映像提供: 川崎市市民ミュージアム
- d-7 ビデオインフォメーションセンター | ラ・アルヘンチーナ頌 [抜粋版] 1977年/5分(オリジナル: 70分) /映像提供: 大野一雄舞踏研究所

### Section 3 パフォーマンス：行為の記録、身体の記録

#### program e ビデオと行為 8作品 〇約74分



e-6



e-8

1960年代以降、「行為」そのものを作品に取り込んでいったアーティストたち。そして彼らにとって格好のメディアであったビデオ。様々な行為の痕跡が映像に刻まれていく。

- e-1 かわなかのぶひる | キック・ザ・ワールド 1974年/15分
- e-2 山口勝弘 | Eat 1972年/1分30秒
- e-3 マーサ・ロスラー | キッチンの記号論 1975年/6分9秒
- e-4 今井祝雄 | ビデオ・パフォーマンス1978~1983 1978-83年/15分35秒
- e-5 デニス・オッペンハイム | アスペン・プロジェクト/圧縮—シダ(顔) 1970年/5分22秒
- e-6 ウィリアム・ウェグマン | 作品選集1 [抜粋版] 1970-72年/8分(オリジナル: 30分38秒)
- e-7 ジョン・バルデッサリ | アートの作法: 葉巻辞典 [抜粋版] 1973年/6分(オリジナル: 12分54秒)
- e-8 小林はくどう | ラプス・コミュニケーション 1972年(1980年再制作)/16分

#### program f ビデオと身体 8作品 〇約64分



f-3



f-6

パフォーマンスの記録に活用されたビデオ。それは単なる記録を超え、時間的・空間的・造形的な加工・操作によって、パフォーマンスの身体表現を拡張・純化させていく。

- f-1 ヴィト・アコンチ | 粉/息 1970年/3分
- f-2 ボール・マッカーシー | 黒と白のテープ [抜粋版] 1970-75年/5分(オリジナル: 32分50秒)
- f-3 村岡三郎+河川龍夫+植松奎二 | 映像の映像—見ること 1973年/12分30秒
- f-4 ジョーン・ジョナス | オーガニックハニーの垂直回転 1973-99年/15分15秒
- f-5 出光真子 | おんなのさくひん 1973年/10分50秒
- f-6 ブルース・ナウマン | ピンチネック 1968年/2分
- f-7 アンテ・ボザニッチ | アイ・アム・ザ・ライト 1976年/3分57秒
- f-8 和田守弘 | 認知構造・表述 [抜粋版] 1975年/10分(オリジナル: 20分)

All images courtesy of the artist and Electronic Arts Intermix (EAI), NewYork.



DVD+カタログ「ヴァイタル・シグナル 日本の初期ビデオアート」

日米同時発売、日本国内 2010 年 5 月 6 日リリース / 制作・発売: Electronic Arts Intermix (EAI) / 販売: アムキー (art media K.Y.)

価格: 31,500 円(税込) \* 学校、図書館等で教育目的にご活用いただけるライブラリー版のみの販売です。

販売についてのお問い合わせ: アムキー (art media K.Y.) URL [www.amky.org](http://www.amky.org) E-Mail [amky@amky.org](mailto:amky@amky.org) Tel&Fax 050-1159-9306